DAX20-0402-3-4 サイバー経済を生き残る法【2018年4月30日PRESIDENT大前研一】

1. 生き残る仕事、 消える仕事、 どんなスキルを磨けばいいか
2. どんな能力が重宝されるのか
   1. ディレクターに求められるのはリーダーシップ
      1. 統率力、 指導力、 判断力、 構想力
      2. 議論を主導して答えにたどり着かせる能力や技術
      3. 従来はどこかにある答えを見つけてくれば良かった。 21世紀は答えのない時代。 過去の成功体験にこだわれば、 目の前の変化に対応できなくなってしまう。 答えのない世界で、 どうやって答えにたどり着くのか。 このプロセスが重要になる。
      4. 必要条件と十分条件を洗い出して「答え」に迫る
3. ロボットが代替できない職種もある。 機械が代替できない創造的な領域の仕事は生き残る
   1. 例
      1. コンサルティング
      2. ファシリテータ的な仕事
   2. 熟練工の仕事はロボット重機がこなせるようになるかもしれないが、 現場ごとの複雑な状況に応じて足場を組むとび職のような仕事は機械では難しい
   3. ホテルのフロント業務でも務まるが、 高級ホテルのきめの細やかなホスピタリティは、 人の手によらなければ提供できない
   4. 真の解決策を探り当てる際のリーダーシップは、 コンピュータでは取って代われない
   5. 既にある答えならネットでいくらでもひけるし、 ロボット教師が全国に一人いればいい。
   6. しかし、 答えがあっているかどうかではなくて、 生徒の思考の癖や行動パターンを洞察して「キミのこういう考え方はきわめて危険だから、 改めたほうがいい」と道徳や倫理的な問題も含めて指導することはコンピュータにはできない。
   7. 議論を活性化したり、 実りのある方向に導いたりするファシリテーター的な仕事も生身の教師でなければできない
   8. 文科省の学習指導要領をそのまま生徒に伝える先生はいらないが、 生徒一人ひとりの個性を見極めて能力を引き出したり伸ばしたりする指導（カウンセリング）ができる人材なら今後も教育現場で必要とされる
   9. どんな商売であれ、 機械が代替できない創造的な領域の仕事は生き残る。 最終的に価値があるのはコンサルティングだと思う
      1. 人間や組織の内面まで観察して、 表面的な数字では捉えきれない課題を抽出して、 課題解決をアドバイスする。 こうしたコンサルティングは機械的にはできない。
   10. 税務処理など機械でできる業務は機械に置き換わっていく
   11. 会計士の仕事は帳簿や財務諸表の内容から業務改善を提案したり、 時流の変化や制度改正などを先取りして早めの対策をアドバイスしたりするコンサルティング業務に重心が移っていくであろう
   12. 定常業務がどんどん自動化されていく中で、 いかにプラスアルファの付加価値を提供できるかが生き残りの鍵になる
4. 機械が代替できない創造的な領域の仕事は生き残る
   1. スマホが世界共通のプラットフォームに
   2. 見えない経済大陸
      1. 実体経済
      2. ボーダレス経済
      3. サイバー経済
      4. マルチプル経済
   3. スマホによって世界の労働市場も一つになった
   4. リカレント教育